

いわて復興だより



平成 23 年 3 月 11 日に東日本大震災津波が発生しました。発災以来、国内外から多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げます。この「つながり」を大切にしていきたいと思っております。

がんばろう! 岩手 つなごう! 岩手 第 167 号 令和 2 年 11 月号

復興に向けて歩み続ける岩手県の今を紹介します

三陸国際ガストロノミー会議 2020 開催

大船渡市
OFUNATO

令和 2 年 10 月 26 日 (月) から 27 日 (火) まで、大船渡市民文化会館リアスホールで「三陸国際ガストロノミー会議 2020」が開催されました。

この会議は、東日本大震災津波で国内外から寄せられた多くの支援に感謝の意を表し、ガストロノミー (美食術・食文化) の視点から国内外の著名なシェフや食の専門家等が

一堂に会するものです。昨年度の「三陸防災復興プロジェクト 2019」での開催に引き続き 2 回目となったこの会議では、「三陸からつなぐ『食』の未来～ With コロナ時代の『食』を考える」をテーマに、いわて三陸の魅力である豊かな食材や食文化等を発信する機会となりました。

プログラムの 1 つである特別講演では、被災地支援や、本県の産地視

察などを通じ岩手と縁の深いフランスの一流シェフであるピエール・ガニエール氏やペルー料理界の第一人者であるガストン・アクリオ氏がリモート出演し、岩手の食材の魅力などについてメッセージを発信しました。

参加者からは「身近な食材について、大変価値のあるものだと感じた」などの感想が聞かれました。



知事と出演者によるフォトセッション



ピエール氏による基調講演の様子



交流会で提供されたバイヤベース

三陸産業復興セミナー開催

釜石市
KAMAISHI

岩手県では、令和 2 年 10 月 20 日 (火)、釜石地区合同庁舎で「三陸産業復興セミナー～水産加工業の危機対応事例に学ぶ～」を開催しました。

水産加工業は、東日本大震災津波や基幹魚種の不漁、新型コロナウイルス感染症の影響で厳しい経営環境にあります。このセミナーは、水産加工事業者の方々の経営戦略の見直し等に向けた事例研修会として開催され、水産関係者等約 60 名が参加しました。

このセミナーでは、小野食品株式会社代表取締役の小野 昭男さんが自身の 30 年間の経営計画とその実践について基調講演をしたほか、株式

会社ひろの屋代表取締役の下苧坪 之典 (したうつぼ ゆきのり) さんがブランド化の取組や海外への挑戦、今後の戦略について事例報告をしました。

また、小野さんと下苧坪さんがパネリストとして「危機を乗り越え成長していく三陸の水産加工業」をテーマにパネルディスカッションが行

われました。基調講演と事例報告の内容を踏まえ、経営戦略の転機の見極め方や地域貢献への思いなど、これからの時代を生き抜くための方策について討論が行われました。

度重なる危機を乗り越えて進もうとしている事業者の実践例を学び、参加した事業者は経営のあり方を見直すきっかけとなりました。



セミナーの模様



パネルディスカッションの様子

いわて復興インデックス
を更新しました!

岩手県では、沿岸被災 12 市町村を中心として本県の復興の現状や進捗状況を分かりやすくお伝えする「いわて復興インデックス」を 3 か月に 1 回更新しています。

今回は令和 2 年 9 月 30 日を基準とし、11 月 13 日 (金) に更新しました。詳細は県のホームページをご覧ください。

■問い合わせ：
岩手県復興局復興推進課
☎ 019-629-6945



りあすぱーくマルシェ in 道の駅 開催

岩手県では、9月から10月にかけて、復興応援販売会「りあすぱーくマルシェ in 道の駅」を初めて開催しました。

県内の道の駅「平泉」、「かわさき」、「雫石あねっこ」、「石神の丘」、「はなまき西南」の計5か所を順にめぐり、水産加工品やジュースなど三陸地域を拠点とする17事業者の商品を販売しました。

新型コロナウイルス感染症の影響で外出の機会が少なくなっている中、「かわさき」と「はなまき西南」で出店した「現役漁師のキッチンカー」がにぎわいを見せるなど、内陸地域の住民や観光客が楽しみながら三陸の魅力あふれる商品に出会うきっかけとなりました。

一部商品は「りあすぱーく“オンライン”マルシェ」でもお買い求めいただけますので、ぜひご覧ください。

りあすぱーく“オンライン”マルシェはこちら



■問い合わせ：

岩手県復興局まちづくり・産業再生課

☎ 019-629-6931



旬の魚介料理が好評のキッチンカー



販売された三陸地域の商品

被災者の参画による 心の復興事業中間報告会 開催

盛岡市

MORIOKA

岩手県では、令和2年11月10日（火）、盛岡市内で「令和2年度被災者の参画による心の復興事業中間報告会」を開催しました。

当日は、今年度事業を実施している9事業者が取組状況の報告を行いました。報告会では、音楽を通じて被災者が交流できる「復興コンサート」や、災害公営住宅や集会施設で昭和の映画などを鑑賞し、当時の思い出を語り合う「みんなで作る交流映画会」など、心の復興や、それを通じたコミュニティ形成支援の取組等が発表されました。

県では、引き続き被災者の心の復興やコミュニティ形成を支援する取組などを進めていきます。

■問い合わせ：岩手県復興局生活再建課

☎ 019-629-6926



報告会の様子

つ な み

世界へ、未来へ、「いわて TSUNAMI メモリアル」

東日本大震災津波の事実と教訓を伝える施設「東日本大震災津波伝承館」

（いわて TSUNAMI（つなみ）メモリアル）を紹介します。

なお、現在新型コロナウイルス感染症対策を行った上で開館しております。

令和2年11月9日（月）、東日本大震災津波伝承館と東北大学災害科学国際研究所は、東日本大震災津波の事実と教訓を世界中の人々と共有し、自然災害に強い社会の実現に寄与することを目的として、連携協定を締結しました。

岩手県庁で開催された協定締結式には、伝承館の館長を務める達増知事、今村災害科学国際研究所長（オンラインで参加）、丸谷副所長、柴山東北大准教授が出席し、（1）防災・減災・復興教育及び学術研究に関すること、（2）国外の研究機関等との学術研究及び伝承等の連携支援に関すること、（3）伝承館での常設展示及び企画展示に関することなどについて、連携・協力する方針を確認しました。

達増知事は、「伝承館が、伝承・発信の拠点として、防災・減災に関する専門的知見を生かした取組や海外津波博物館との連携・交流を一層推進するため、国外の研究機関や津波博物館とつながりのある災害科学国際研究所

と連携協定を締結することは大変意義深い」と述べました。

伝承館では、この連携協定を契機として、国際的なネットワークを活用し、国内外を代表する津波学習拠点を目指していきます。

■問い合わせ：東日本大震災津波伝承館

☎ 0192-47-4455



協定締結の記念撮影（左から達増知事、丸谷副所長、柴山准教授）

東日本大震災津波の被害を受けた沿岸地域の郷土芸能の復興の姿と支援への感謝をお伝えしていきます。今回は、山田町の郷土芸能「八幡大神楽」について、鎌田 雅和さんに伺いました。



八幡大神楽保存会 会長
鎌田 雅和 さん

山田町八幡町地域に継承される「八幡大神楽」の始まりは明治のはじめ頃とされています。家内安全と大漁を祈願して厄を払い、福を呼ぶ踊りです。

毎年9月中旬に行われる「山田祭り」は、山田八幡宮と大杉神社、2つの神社の例大祭からなる伝統の祭りで、めでたい踊りとされていることから、ここでの披露をはじめ、結婚式やお店の開店祝いなどで披露することもあります。

震災で山田町は、津波とその後が発生した火災で壊滅的な被害を受けました。私たちの会員が集まったり、道具を保管する「宿（やど）」と呼ばれる施設も被災し、獅子頭をはじめ、太鼓や衣裳など全てを失くしました。

震災後は、全国の方々から支援を受け、震災のあった平成23年6月には盛岡市の櫻山神社で行われた「三陸復興祈願祭」に呼んでいただき、それに向けて練習を再開しました。

山田町は、三重県から多くのボランティアや職員の派遣などの支援をいただきました。その中で、三重県伊勢市にある皇學館大学とのボランティア活動を通じた繋がりで、平成24年から26年までの各年で、伊勢神宮で八幡大神楽を奉納する機会をいただきました。

震災前は180人ほどの会員がいましたが、少子化で子供たちの会員が少なくなることが心配されます。また、今年は新型コロナウイルス感染症の影響で「山田祭り」も中止になりました。人の集まりを避けるために練習もできない状況ですが、今後は後継者を育て、多くの人たちに「八幡大神楽」の魅力を伝えていきたいと思います。



「八幡大神楽」の演舞の様子（写真提供：八幡大神楽保存会）



さんりくイベント情報



いわて三陸復興フォーラム～国内外からの応援に感謝～

- 日時 12月13日（日）13:30～15:40（予定） ※当日は、13:00より視聴可能となっております。
 - 内容 岩手県沿岸部4か所と東京を結び、観客席等を設けず完全リモート配信でフォーラムを開催します。インターネットで配信し、県の公式動画チャンネルなどでご視聴いただけます。
- <スペシャルゲスト> 村上 弘明 さん（俳優/いわて☆はまらいん特使）
<司会> 蔦 京平（テレビ岩手アナウンサー）

視聴無料

完全リモート配信
フォーラム

抽選で
視聴者プレゼントあり

【第1部】オープニング動画放映

映像① 復興10年の歩み～国内外からの応援に感謝～

映像② 特別知事対談 達増岩手県知事 × 小池東京都知事

【第2部】ゲストパネラーによる発表

<ゲストパネラー>

人首 ますよ さん（東日本大震災津波伝承館

「いわて TSUNAMI メモリアル」解説員）

柏木 美子 さん（株式会社街の駅・久慈 企画営業課長）

赤沼 喜典 さん（三陸鉄道株式会社 宮古駅長）

菊池 のどか さん（いのちをつなぐ未来館 ガイド）

【第3部】岩手県産品 PR コーナー

<ゲストリポーター>

志田 友美 さん（タレント/希望郷いわて文化大使）

<出演者>

長澤 由美子 さん（いわて銀河プラザ店長）

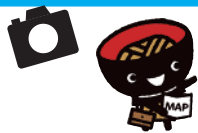


詳しくは、下記事務局のホームページ
をご覧ください。



フォーラム視聴後、アンケートに回答いただいた方から抽選で、岩手県沿岸部の素敵な商品をプレゼントします。

■問い合わせ：いわて三陸復興フォーラム事務局
☎ 019-624-9034



震災の経験と教訓を後世に伝え、地域の復興のしるべとして「ケルン・鎮魂の鐘と光」(久慈市)のモニュメントが建立され、現在、震災伝承ネットワーク協議会が登録する震災伝承施設に位置付けられています。



ケルン・鎮魂の鐘と光
(写真提供：震災伝承ネットワーク協議会事務局)



3月11日に太陽の光が差し込まれている様子
(写真提供：鹿糠 清次 様)

このモニュメントは、久慈港に面した「諏訪緑地」(通称JC公園)にあります。ケルン(登山の道標となるように石を積み上げたもの)をモチーフとした円すい形で、高さは久慈南海岸を襲った津波の水位とされる14.5mです。市内で発生したがれきを土台として、市民が持ち寄った

石を積み上げてつくられ、表面には市内の子どもたちが震災への思いを書き込んだ石がくみ上げられています。

毎年3月11日の午後2時46分にモニュメントの斜めに開けられた穴を通して太陽の光が差し込まれる形で設計され、モニュメントの横には鎮魂と希望の鐘が設置されています。

このモニュメントは、地元のNPO法人「岩手・久慈ケルンの会」の募金活動に賛同した多くの市民や県内外の方々の寄付によって建立されました。

- 所在地：久慈市長内町第42地割(JC公園内)
- 問い合わせ：NPO法人「岩手・久慈ケルンの会」 ☎090-1931-3950



連載「いわてさんりくびと」では、被災地・三陸の復興に向け、熱い想いをもち、活躍する方々を紹介していきます。

第113回は、兼澤 幸男さんを紹介します。

PROFILE

大槌町出身。国立宮古海上技術学校を卒業後、海運会社に就職する。

東日本大震災津波を機に帰郷し、町内の会社に勤めながら、狩猟免許を取得する。

令和2年5月、県内初となる鹿肉の加工工場を設立し、大槌産のジビエを提供する。

有害鳥獣を新たな資源に

船員として県外で働いていた兼澤さんは、震災の津波で母が行方不明になったのを機に、大槌町に戻りました。

農家である父の実家では、鹿に田畑が荒らされ、近隣では、鹿による被害で農業を諦めざるを得ない農家もあることを知った兼澤さんは、「鹿の駆除を自分にもできないか」と、狩猟免許

いわてさんりくびと

MOMIJI 株式会社
代表取締役 兼澤 幸男さん
(かねさわ ゆきお)



山と海が育てた大槌ジビエ
大槌鹿食べてみて下さい。

を取得し、有害鳥獣駆除の活動を始めました。「駆除された鳥獣がそのまま焼却処分されている中、命を無駄にするのではなく、この資源を活用できないかと思ったのがジビエ事業を始めたいきっかけです。」と兼澤さんは話します。

新しい食文化の創出

県内初の鹿肉加工工場「MOMIJI」を設立した兼澤さんは、鹿肉を食用に、角はタペストリーなどに加工し販売しています。

「鹿肉は、固い、臭いなどの固定概念を持っている人も多いと思いますが、加工するまでの時間を短くすることで、良質で美味しい食材になります。今、社会的課題となっている鳥獣被害を町の財産に変え、新しい食文化や特産品を生み出す大槌ジビエソーシャルプロジェクト“大槌ジビエサイクル”を進めています。同時に、若手ハンターの育成や住民の理解を広めるこの活動が、全国各地、同じような問題意識を持つ地域での課題解決につながればと思います。」と兼澤さんは、この取組に力を注いでいます。

岩手県の被害状況

令和2年10月31日現在

▶人的被害 死者(直接死)：4,674人 行方不明者：1,111人
死者(関連死)：469人

▶建物被害(住家のみ、全半壊) 26,079棟

被害状況等の詳細

義援金・寄付金の募集等

[いわて防災情報ポータル](#)

検索

皆様のご支援、ありがとうございます

令和2年10月31日現在

▶義援金受付状況 約187億4780万円(97,671件)

▶寄付金受付状況 約201億1622万円(10,321件)

▶いわての学び希望基金(※)受付状況 約102億4430万円(24,893件)

※被災した子どもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。



いわて震災津波アーカイブ～希望～
約24万点の資料を検索・閲覧できます。



[いわて震災津波アーカイブ](#)

検索

いわて復興だより 第167号 令和2年11月20日発行
企画・発行：岩手県復興局復興推進課 ☎019-629-6945
編集・印刷：シナプス